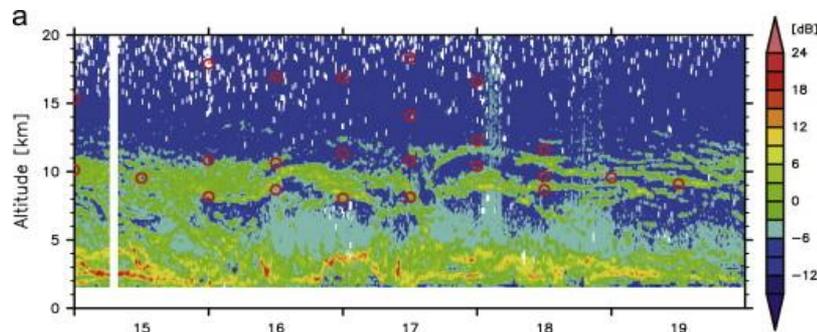


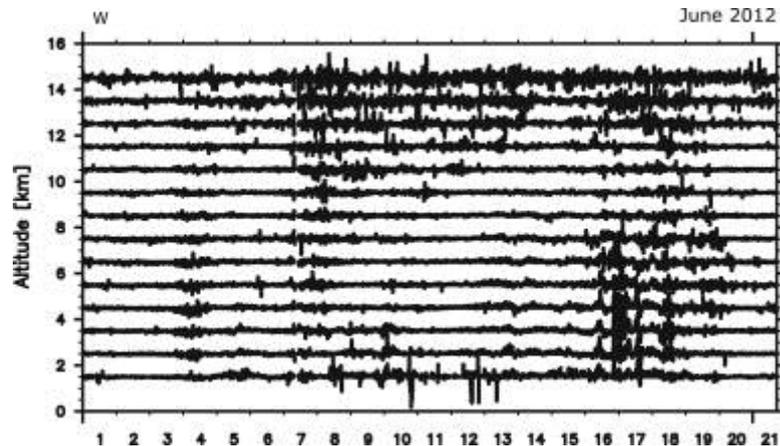


PANSYによるブリザード観測例

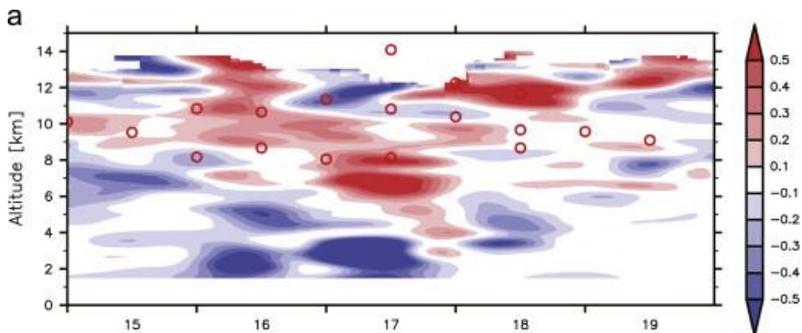
- 2012年4月末よりPANSYレーダー12/55システム(228アンテナ)による対流圏・成層圏観測を開始した。
- 右上図は6月15~18日のB級ブリザード時のエコー強度(鉛直ビーム)である。高度8~12kmに見られる強いエコー層は多重対流圏界面に対応していて、対流圏界面がダイナミックに変動している様子がとらえられている。
- ブリザード時には対流圏全層にわたり強い鉛直風擾乱が現れており(右下)、強い運動量フラックスを伴うこともわかった(左下)。



PANSYで2012年6月のブリザード時に観測された鉛直ビームによるエコー強度の時間高度断面図。赤丸はラジオゾンデ観測で得られた熱的対流圏界面の位置。



PANSYで2012年6月に観測された鉛直風の各高度におけるラインプロット。水平線の間隔は3m/sに対応。



慣性周期(13時間)以下の擾乱による東向き運動量の鉛直フラックスの時間高度断面図。単位は(m/s)²。

(Sato et al., J. Atmos. Solar-Terr. Phys., 118A, 2-15, 2014.)